

別記様式第6

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (文 学)	氏 名	澤 宗則																		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当																				
論 文 題 目 グローバル経済下のインドにおけるローカルな空間の再編成に関する研究																					
論文審査担当者 <table> <tr> <td>主 査</td> <td>教授</td> <td>岡橋秀典</td> </tr> <tr> <td>審 査 委 員</td> <td>教授</td> <td>奥村晃史</td> </tr> <tr> <td>審 査 委 員</td> <td>教授</td> <td>友澤和夫</td> </tr> <tr> <td>審 査 委 員</td> <td>教授</td> <td>古瀬清秀</td> </tr> <tr> <td>審 査 委 員</td> <td>准教授</td> <td>後藤秀昭</td> </tr> <tr> <td>審 査 委 員</td> <td>東北大学教授</td> <td>日野正輝</td> </tr> </table>				主 査	教授	岡橋秀典	審 査 委 員	教授	奥村晃史	審 査 委 員	教授	友澤和夫	審 査 委 員	教授	古瀬清秀	審 査 委 員	准教授	後藤秀昭	審 査 委 員	東北大学教授	日野正輝
主 査	教授	岡橋秀典																			
審 査 委 員	教授	奥村晃史																			
審 査 委 員	教授	友澤和夫																			
審 査 委 員	教授	古瀬清秀																			
審 査 委 員	准教授	後藤秀昭																			
審 査 委 員	東北大学教授	日野正輝																			
〔論文審査の要旨〕 <p>本論文は、急速に進行する今日のグローバル化の下で、開発途上国において生じている地域変化（空間的再編成）について、インドを事例に実証的に解明しようとしたものである。農村を中心としたローカルな空間に焦点を当て、フィールドワークで得たデータをもとに詳細な検討を行っている。</p> <p>本論文は、問題の所在と研究の目的、従来の研究、論文の構成などを述べた序論（第1章）、本論に当たる第2章から第7章、そして結論（第8章）からなる。補遺として、1農村の10年にわたる社会変化を、カーストごとに克明に記述したモノグラフが付されている。</p> <p>まず序論では、これまでの研究成果を人文地理学や開発論を中心に多面的に振り返り、グローバル化が空間の統合化のみならず、差異化（地域分化）をも推進することの重要性を指摘している。それを検討しうる枠組みとして、社会学者アンソニー・ギデンズの近代化理論を援用し、脱領域化と再領域化の概念にもとづく独自の分析視点を提起している。</p> <p>第2章では、ローカルな空間の検討に入る前に、全国レベルあるいは広域の地方レベルでのグローバル化に伴う再編成について考察している。ここでは経済的な側面、特に自動車産業やIT産業を中心とした検討により、脱領域化と再領域化の動きを論じている。</p> <p>第3章から第6章は、すべて農村を対象とした研究である。いずれの章も現地調査によって得た世帯レベルの一次資料にもとづく詳細な分析である。対象地域は、地域間の比較を意図して、都市の影響の弱い大都市圏外の農村と大都市圏内の農村の双方を取り上げている。具体的な考察では、農業経営、就業構造、教育水準などの変化を重視し、それらを都市化や工業化、カーストなどの地域社会変化と関連づけて対象農村の変化を捉えている。</p>																					

第3章は1990年代初頭のカルナータカ州の大都市圏外の農村、第4章はIT産業の発展するベンガルール大都市圏内の工業団地近接農村、第5章は急速な発展をとげる首都デリーの大都市圏に包摂された農村、第6章は低開発地域にあるが工業団地に近接する農村を対象としている。いずれの農村においても、ローカルな場所に埋め込まれた場所性がはぎ取られ脱領域化する一方、新たな意味づけにより再領域化が進んでいることを確認する。ただし、都市化や工業化の程度によって、その態様に差異があることも見出している。

グローバル化はインドからの移民の増大をもたらした。第7章はインド系移民の定着地というべきローカルな空間として、東京における移民社会に焦点を当てる。労働市場の脱領域化により流動化した労働力が、一方で彼らの文化に埋め込まれた定住地を形成する中で再領域化を進めていることを明らかにしている。

結論では、本研究で得られた空間再編成に関する成果を、ナショナルスケール、リージョナルスケール、ローカルスケールという三つの地域スケールごとに整理して示し、インドにおけるローカルな空間の再編成の特質を論じている。その成果に立って、脱領域化と再領域化の概念の有効性を確認している。

以上のように、本論文は、開発途上国・インドのローカルな空間の変容について、新たな枠組みを導入して実証的に考察した研究である。丹念な地域調査によって収集した一次資料の説得力はきわめて高く、現代インドの地域変化を実証的に解明することに成功した論文として高く評価される。今後の南アジア地域研究の発展に資する重要な論文と位置づけられる。

以上、審査の結果、本論文の著者は、博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。